

「豊かな循環が育む水と緑のふるさと・信州」をめざして



私たちが暮らす長野県は、雄大な山岳、豊かな森林や清らかな水など、四季の変化に富んだ美しい自然を有しています。長野県民は、この豊かな自然の恵みの中で、歴史を刻み、固有の文化を築き上げてきました。

しかし、今日の社会経済活動は、生活に利便性や豊かさをもたらした一方で、全ての生物の生存基盤である地球環境に深刻な影響を及ぼしています。進行する地球温暖化、世界的な廃棄物発生量の増大、生態系の劣化など様々な問題が指摘されており、環境への負荷が今後も増大し続けた場合、持続的な社会経済の発展に支障を来たすおそれが生じています。私たちは、地球の悠久の歴史の中で育まれてきた環境を守り、将来の世代と共有していくために、常に環境への負荷の少ない行動を選択するように、一人ひとりの意識や社会のあり方を変えていかなければなりません。

このたび、県では環境基本計画を改定し、「豊かな自然と共に生きる長野県」を実現できるよう、平成 24 年度までの環境に関する施策の方向性を決めました。地球規模で進行している温暖化に対しては、本県では 2012 年度までに 1990 年度比で県内の温室効果ガスの排出量を 6%削減することをめざしていますが、さらに、長期的に大幅な削減を図るため、森林整備による二酸化炭素吸収源対策や再生可能エネルギーの導入促進など、本県の特性を生かした低炭素社会づくりに取り組んでまいります。

また、水や大気、自然環境の保全、資源循環型社会の形成など多様な課題に取り組む、県民、事業者、行政などあらゆる主体の参加と連携による持続可能な社会づくりを進めていきたいと考えています。

「豊かな循環が育む水と緑のふるさと・信州」をめざして、多くの県民の皆様が環境保全のための行動に積極的に参加していただくことを願っています。

平成 21 年 2 月

長野県知事

村井 仁